



＼経済産業省「未来の教室」実証事業やEdTech導入補助金の好事例を配信するニュースレター／

未来の教室 通信

Standard

Vol. 09

GIGAスクール環境を活かして先生と生徒達がEdTechを使って創る、「新しい学び方」のモデルをお届け！

Vol. 09

先

生の負担ゼロ！英国名門イートン校から学ぶ21世紀に必要なスキルとは？

鷗友学園女子
中学高等学校



村田祐子教諭

中学レベルの英語でもぐんぐん伸びる、世界一流のプログラムに迫る

イギリスの名門校「イートン」の授業が日本語のサポート付きで学べる！？

“One child, one teacher, one book, one pen can change the world.”（1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペンが、世界を変えられるのです。）

マララ・ユサフザイさんの国連スピーチを、生徒一人ひとりが食い入るように見つめています。課題は、「あなたのプレゼンテーションとどこが違うか、具体的に考えてみる」と——これは、人の心を動かすプレゼンテーションスキルを学ぶオンライン授業の一コマです。このユニークなプログラムを提供するのは、かの有名なイギリスの名門校、イートンカレッジ。イートンといえば、英国王室のウィリアム王子とハリー王子の出身校としても世界中に知られ、歴代首相を20名も輩出しています。同校は2015年にEdTech組織「EtonX」（イートンエックス）を設立し、世界60カ国で展開。次世代のリーダーに求められる11個の「Future Skills」※1を養成しています。実は今、そのEtonXの質の高いカリキュラムに、日本からもアクセスできるのです。

東京都世田谷区にある中高一貫の私立女子校・鷗友学園では昨秋、経済産業省の「未来の教室」プロジェクトとしてEdTech導入補助金を活用し、このEtonXを採用しました。

「本校ではグローバルリーダーの育成を目指すにあたり、自分の考えをどう伝えるか、相手の考えをどのように受けとめて応答するかなど、生徒たちがプレゼンテーションや対話のスキルを身につける必要性を感じていました。ところが残念ながら、今の日本の教育では、そうしたスキルを体系的に学べる機会がありません。EtonXを紹介された時はまさに『これだ!』と思いました。」（国際部部長 村田祐子教諭）

参加に必要なものはネット環境とパソコンのみ。EtonXの日本でのパートナーであるグローバルスカイ・エデュケーション株式会社（GSE）が、現地とのスケジュール調整や生

徒へのオンラインサポートなどを担います。「学校側の負担」といえば生徒の募集をかけるくらい。この負担の軽さはEdTechの恩恵」と村田教諭は絶賛します。「日本語のサポートが付くコースであれば、中学校卒業相当の英語力でも付いていける内容です。全国の高校生に自信を持ってお勧めできます。」（村田教諭）

コンテンツが面白いから最後まで頑張れる

EtonXの期間は7週間（短期集中は2週間）。鷗友学園が選んだ「Future Skills」は、Public Speaking（公の場でのスピーチ）、Making an Impact（人の心を動かす）、Creative Problem Solving（創造的課題解決）の3つでした。各テーマで扱うテキストの内容は同じですが、英語力に応じて次の2つのコースに分かれます。

A オリジナルコース：グループは日本人生徒のみで、GSEの日本語によるフォローアップが付き、テキストの日本語訳も使える。7週間の期間に3回ワークショップがあり、GSEに認定されたネイティブ講師が指導に当たる。ワークショップに向けた生徒の学習状況はGSEがオンラインで随時確認するため、遅れがある生徒には直接メールでフォローが入る。最後のワークショップでは、各自が学んだことを2分間のスピーチで発表する。

B チューターコース：イートンカレッジ認定の先生から直接指導が受けられる。日本語によるサポートはなく、他国から参加する生徒と共同で毎週土曜日に行われるワークショップは全て英語（計7回）。修了者にはイートンカレッジからCertificate（修了証明書）が授与される。▶詳細P4

「いずれのコースもワークショップに向けて予習が必要なので、途中で挫けてしまう子もいるかなと思っていたのですが、参加した106名の生徒の大半が『コンテンツが面白いから続けられた』と言っていました。『難しくても面白いから頑張れる』という絶妙な仕掛けづくりはさすがイートンだなと。私たちには到底真似ができないと思いました。」（村田教諭）

では実際に参加した生徒たちはどんな様子だったのでしょうか。

※1 P4参照

Interview 01

「伝えたい」と思う気持ちが 語彙力を伸ばす

小池 涼葉さん

高校1年生 (参加時は中学3年生)



■ **参加コース** Making an Impact (人の心を動かす) のオリジナルコース

■ **参加理由** 英語が得意とは言えなかったが、部活をしておらず、時間に余裕があったのでやってみようかなと思いました。

■ **EtonXで得たもの**

① **英語の語彙力** EtonXに向けて英語力を付けようと、夏休みには英語の勉強に励んだという小池さん。でもいざ始めてみると、出てくる単語が全く分からないものばかりで大変だったと言います。

「私が今まで習っていた英単語は日常会話のレベルだったことに気づき、自分の語彙力不足を痛感しました。EtonXでは予習の際、重要な単語は黄色い線でハイライトされているので、意味や使い方をその都度調べて頭に入れていくようにしました。途中で挫折そうになったこともありましたが、一緒にやっている友達がすごく頑張っていたので、私もやる気が出ました。」

小池さんは、予習した内容をワークショップで実践します。「単語帳で覚えるのとは違い、先生と対話をしたり、発表をしたり、自分の意見や考えを伝えるために使うと、難しい英単語でも自然と文脈ごと頭に残り、忘れにくくなります。英語の語彙力が一気に伸び、直後に受けた英検準2級の試験ではかなりの高得点で合格できました。」

② **英語で伝える力** 小池さんが「語彙力」と同時に伸びたと実感しているのは「伝える力」です。

「マラさんのスピーチとの比較は、自分のプレゼンテーションに何が足りないかがわかる良い機会になりました。7週間の勉強を通じて、ボディランゲージを交えた印象に残る伝え方やディスカッションへの参加の仕方など、『こうやって伝えるんだ』という手応えが得られました。以前は消極的で、自分から進んで発言するタイプではなかったのですが、伝える力が身に付いたことで、自信を持って説得力のある発言ができるようになりました。」

英語は決して得意科目ではなかったという小池さんですが、EtonXに参加して、「将来は英語を使って働きたい」と思うようになったそうです。

「もっと英語力を磨いて、次の機会には海外の学生と一緒にイートンカレッジ認定の先生から直接指導を受けられるチューターコースに挑戦したいです。」

Interview 02

広い世界と多様な視点から 自分を知るきっかけに

野見山 十和子さん

高校2年生 (参加時は高校1年生)



■ **参加コース** Creative Problem Solving (創造的課題解決) のチューターコース

■ **参加理由** 学校主催の夏期留学でアメリカに行く予定でしたが、コロナ禍で中止に。ずっと憧れていた留学に行けなくなってすごく落ち込んでいたので、EtonXを紹介された時は絶対参加する以外ないと思いました。

■ **EtonXで得たもの**

① **多様な視点** イートンカレッジ認定の先生が毎週のワークショップで、クリエイティブな力を試す問題を出してくれます。ワークショップでは他国の生徒と英語でディスカッションをするため、相応の予習が必要です。野見山さんは毎週、ワークショップに向けて1日30分×3日間を予習に費やしました。

「例えばある写真を見せて、『これはどうしてこうなっていると思う?』って先生が問いかけるんです。真面目に説明する子もいれば、『写真が偽造だ!』なんて答える子もいて。日本の学校の一般的な授業では正解を学ぶことが目的になり

がちですが、この授業には正解がないのでたくさんの意見が飛び交います。多様な視点から物事を捉えられるようになり、大きな刺激を受けました。」

② **自己肯定感** 「誰よりも英語の勉強を頑張ってきた」という野見山さんですが、学校の授業で積極的に発言していると、「なんでそんなに頑張れるの?」と言われ、自分は周囲から浮いているのではないかと感じたこともあったそうです。ところがEtonXでは、「そんな自分が『そのままでもいい』と思った」と野見山さんは振り返ります。

「自分の意見を言うのも好きだけど、EtonXでは”How about you?” (あなたは思う?) と投げかけたらすぐに意見を返してくれる人がいて、いろんな反応を得られるところが本当に楽しかった。また、実際にイートンカレッジ認定の先生から直接指導が受けられ、私の個性を高く評価して下さったことも自信になりました。」

③ **進路選択のきっかけ** それまで野見山さんは、憧れの職業や夢、学びたいことも特になく、文系理系の選択でもかなり迷っていたと言います。でもEtonXに参加して、「自分は多様なバックグラウンドの人たちと対話をしながら、世界観を広げていくことがすごく好きだということに気づいた」という野見山さん。

「自分が将来やりたいことが見つかったのは大きな収穫でした。大学はリベラルアーツを学べるところに行きたいです。」

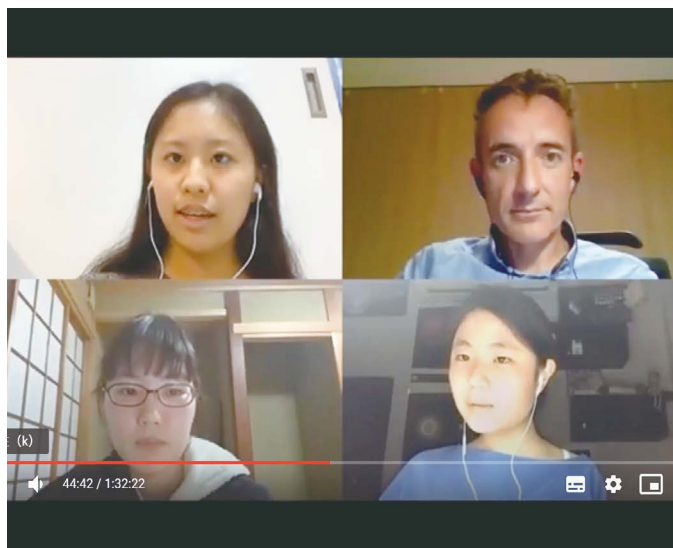
コロナ禍でも生きた英語で学べる機会を

「コロナ禍で留学や海外研修は中止。さらに学校行事や部活動にも自粛が強いられた中、心にぽっかりと穴が空いて、やる気を失くしたり落ち込んだりしていた生徒たちに、何かのきっかけになればと思った」と村田教諭は言います。

「7週間のプログラムを経て、生徒たちは『水を得た魚のように泳ぎ出した』という感じです。自信が付くってこういうことなのか、と思いましたね。それまでは、何か新しいことをやる時は不安そうに相談してきて、その不安をまず聞いてあげないと前に進めない子が多かったのですが、今ではもう『やってみれば?』って背中を押すだけです。」
(村田教諭)

また、EtonXを採用したことにより、自校の教育について改めて浮き彫りになった点もありました。

「これまでの英語の授業では、スキットのような基本の「型」をなぞるだけで終わっていたことに気づかされました。それでは生徒は物足りず、学びは深められないな、と。EtonXではまずユニークな課題があり、そのために自習で十分なインプットをした上で、ワークショップでは自ら問いを立てたり、答えを考えたりして、各々が試行錯誤しながらアウトプットを重ねます。そうやって対話や発表の場で実践を通じて鍛えられ、自信をつけることで、もっと伝えたい、学びたいといった気持ちが湧いてくるんですね。」
(村田教諭)



EtonXでのプログラムの様子

コロナ禍にあっても、わが子に「生きた英語を学べる機会」を模索していた多くの保護者からは、「イートンの教育だから安心して任せられた」「娘が自主的に学んでいる姿を見られて嬉しかった」といった声が多く寄せられたそうです。ごく一部の限られた人々にしか手の届かなかった世界一流の教育。EdTechを活かし、子どもたちの中にまだ眠っている才能を掘り起こすきっかけにしてみてもどうでしょうか。

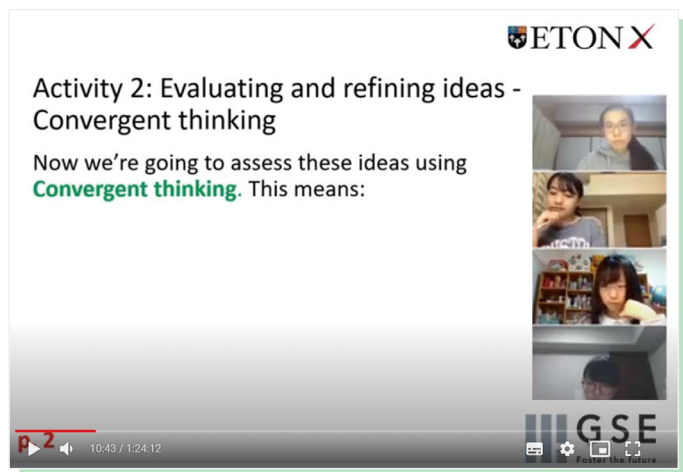
[記事で紹介したEdTechの詳細はこちら](#)



事業者名：グローバルスカイ・エデュケーション株式会社
公式サイト：<https://gskyedu.com/>

学校紹介 鷗友学園女子中学高等学校

Vol.09 国際社会で活躍する女性の育成を目指し、1935年に創立。中高一貫で女子の特性や心理を考慮した独自のカリキュラムと環境づくりで生徒の多様な挑戦を応援し、一人ひとりの可能性を引き出す教育で大躍進を遂げている。



EtonXでの授業のアクティビティの様子

1人1台端末と様々なEdTechを活用した新しい学び方はこちら



EdTech
ライブラリー



学校BPR
学校における働き方改革



未来の教室 通信



未来の教室ってなに? 経済産業省の有識者会議「『未来の教室』とEdTech研究会」では、新しい学習指導要領にもとづき2020年代に実現したい「今を前提にしない学びの姿」を、「未来の教室ビジョン」にまとめました。その議論の内容は、ウェブサイト「『未来の教室』の目指す姿」をご覧ください。



「未来の教室」通信

発行：経済産業省 商務・サービスグループサービス政策課 教育産業室 Tel: 03-3580-3922
Facebook: <https://www.facebook.com/METI.learninginnovation/>
公式サイト: <https://www.learning-innovation.go.jp/>

未来の教室 検索

記事の
定期配信は
こちら



EtonXとは？

リーダーシップ教育で名高い英国の名門イトン校が世界60カ国に展開する
オンラインラーニングプログラム

◆ VUCA with コロナ時代を生き抜く人材に必須のFuture Skillsを養成

次代を生き抜くFuture Skills

コアスキル	発展スキル	アカデミックスキル	キャリア準備
- Verbal Communication (コミュニケーション) - Critical Thinking (多面的思考) - Resilience (立ち直る力)	- Public Speaking (公の場でのスピーチ) - Making an Impact (人の心を動かす) - Creative Problem Solving (創造的課題解決)	- Writing Skills (アカデミックライティング) - Research Skills (リサーチの技法)	- Interview Skills (面接でのコミュニケーション) - CV Writing (レジュメでの自己表現) - Entrepreneurship (新規ビジネスを考える)

■ プログラムの特徴

1. 内省を促す主体的な学習 イートンカレッジの先生たちが各コースのディレクターとなり企画・開発および講義動画を担当

◆ 動画、インタラクティブスライド、エクササイズ、ジャーナル機能等を駆使した能動的な学習

2. 英語で協働ディスカッション バーチャルクラスルームで世界中の若者とつながり、専門テーマについて協働しディスカッション

◆ 英語運用に自信がない生徒には、日本語サポートやオリジナルオンラインレッスンを用意

対応教科・科目例：総合、英語、選択科目 / 学校設定科目、探究、国際、課外授業 他

対応学年：中2～高3

対応機器：PC、タブレット

鷗友学園での活用例

■ テーマ Public Speaking (公の場でのスピーチ)、Making an Impact (人の心を動かす)、
Creative Problem Solving (創造的課題解決)

A オリジナルコース：グループは日本人生徒のみ

実施時期：2020年10月中旬～12月上旬

中3～高2

計60名参加

課外授業

◆ 校内での応募要件：英検準2級にチャレンジする生徒又はそれ以上の生徒※1

実施内容	週数	1	2	3	4	5	6	7
授業のスケジュール								
自習※2								
ワークショップ※3								
課題								

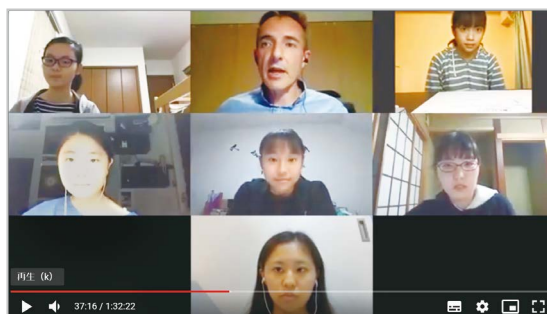
※1 ただし、GSE では、英検2級程度の生徒の参加を推奨

※2 EtonX オンライン自習 (1日30分～1時間程度)

日本語学習マニュアル (全ウェブサイト翻訳+解説)

※3 GSE オンラインワークショップ (90分×3回)

GSE ネイティブ講師が担当、導入校の日本人生徒最大8名が参加 (ZOOM オンライン使用)



B チューターコース：世界60カ国から生徒が参加

実施時期：2020年10月下旬～12月上旬

高1～高2

計46名参加

課外授業

◆ 校内での応募要件：英検2級程度又はそれ以上の生徒※4

実施内容	週数	1	2	3	4	5	6	7
授業のスケジュール								
自習※5								
ワークショップ※6								
課題								

※4 ただし、GSE では、英検準1級以上の生徒の参加を推奨

※5 EtonX オンライン自習 (1日30分～1時間程度)

※6 EtonX オンラインワークショップ (50分×7週)

EtonX チューターが担当、世界60カ国から生徒最大8名が参加 (EtonX バーチャルクラスルーム使用)

